

著書、報告書出版および学会大会発表の報告

村田 あが

1) 著書の刊行

『住まいの100年』(共著) 出版報告

日本生活学会編 生活学第26冊 2002年12月発行 ドメス出版

共著者：川添登，松本暢子，小川信子ほか

住居学の100年の歩みをまとめたものである。絵年表作成委員会に所属し，住まいの100年絵年表の計画と作成を担当した。(全181頁中8頁担当，p.16-19，1.28-31)

2) 報告書の発行

①新公共施設基本計画策定委員会報告(共著)

武蔵野市企画部企画課編 2003年3月発行

共著者：西尾勝，田端貞寿，栗田充治ほか

2001年3月より2年間にわたり武蔵野市の新公共施設基本計画策定委員会の委員として，武蔵境駅前の新公共施設基本企画策定に従事した。2003年3月に報告書をまとめ，武蔵野市長に答申した。策定委員会の議事録及び本報告書は，武蔵野市のホームページ上にも公開された。

②PI外環沿線協議会中間とりまとめ(共著)

PI外環沿線協議会編 2003年6月発行

共著者：国土交通省，東京都，PI外環沿線協議会協議員

2002年6月より東京外郭環状道路の練馬・世田谷間の計画について，パブリック・インボルブメント方式により協議する，国土交通省及び東京都主催の委員会が発足し，筆者は武蔵野市の要請により市代表の協議員として参加している。標記はその会議の中間とりまとめであり，官民共同で発行した。協議会議事録及び本中間とりまとめは，国土交通省のホームページ上にも公開されている。

3) 日本家政学会第55回大会発表報告

標記学会大会の研究発表は，2003年5月にお茶の水女子大学(東京都文京区)で行われた。発表論文名は『『三事略考』にみる安永年間の住まい像』(日本家政学会第55回大会梗概集 p.219)である。安永元年(1772)の家事書における住まいづくりの記述を分析し，使いや

すい間取り，日照・通風の確保，災害への配慮などを普請時の要点としていたことを明らかにした。なお，本研究は平成14年度科学研究費補助金の助成を得て行った。

4) 世界3大道路プロジェクト座談会出席の報告

標記座談会は，2003年9月に朝日新聞社社会部主催により朝日新聞東京本社で開かれた。出席者：マーシー・シュワルツ（米国交通学会PI委員会前委員長），カール・ゴツチャル（米国連邦道路庁中央幹線・トンネル事業責任者），エブリース・アンベール（仏国設備省イル・ド・フランス地方整備局交通施設研究部長），栗林勝彦（PI外環沿線協議会協議員），村田あが

公共事業への参加（PI）を考える日米仏座談会に出席した。本座談会の概要は，2003年9月22日の朝日新聞朝刊に掲載された。

5) 新聞掲載の報告

本学教員7名の連載である読売新聞「ぜみなーる江戸東京学」に寄稿し，2003年9月6日読売新聞朝刊都内版に掲載された。「表参道 変ぼう見守るケヤキ並木」と題し，表参道の成り立ちと同潤会青山アパートの解体，新たな建設の動向についてまとめた。